

平成 26 年 5 月 7 日
常務理事会決定

「インチョン 2014 アジアパラ」
水泳競技身体日本代表選手・役員推薦選考方針

(一社) 日本身体障がい者水泳連盟

前回の広州 2010 年アジアパラで、水泳競技は 51 個のメダルを獲得、日本全体の半数を水泳競技が占め、中国について 2 位となった。今回も同様に多くのメダルを獲得するため、多くの種目にエントリーを目指す。また「リオ 2016 年パラリンピック」の MQS 有効記録の開始大会に当大会があたることから、リオを目指す選手、さらには、東京 2020 年パラリンピックにつながる選手を選考し、日本パラリンピック委員会へ推薦する

- 1、水泳選手団は、礼儀と規律を遵守し、健康で元気ある日本の代表にふさわしく、競技に全力を尽くすとともに、他の参加国との友好と親善に寄与できる選手、役員を推薦する。
- 2、選手の推薦は概ね 30 名程度とし、次の条件を満たす者の内から推薦選手選考委員会で選考する。推薦する選手はいずれも IPC-SW 国際ライセンス登録をし、大会参加基準記録を突破している選手が前提となる。

第 1 優先順位の選手

別添 1、「インチョン 2014 アジアパラ」推薦選手選考基準記録を 2014 年 3 月静岡記録会から 7 月 J P 大会の間に突破した選手の中から競技成立の可能性の高い種目を考慮し選考する

ただし、強化指定選手にあつては、リオ 2016 年 MQS 開始大会であるため、ノンタイトルの可能性があつても選考する。

* 記録は IPC-SW 公認大会の記録とする

第 2 優先順位の選手

別添 2、育成 A 選手「インチョン 2014 アジアパラ」推薦選手選考基準記録を 2014 年 3 月静岡記録会から 7 月 J P 大会の間に突破した選手の中から競技成立の可能性の高い種目を考慮し選考する。(1 種目のエントリーには 1 国 3 名以内が原則となっているため、第 1 優先順位の選手と同種目に複数となる場合は、1 名の選考となる可能性が高い)

*記録はIPC-SW公認大会の記録とする

第3 優先順位の選手

第1・2 優先順位で推薦決定した選手でリレー種目が成立しない場合、必要な選手を選考する

3、コーチ等役員の推薦は概ね十数名程度とし、監督の推挙があったものから常務理事会で推薦決定する

4、推薦選考を希望する選手の審査申請

この方針に基づいて推薦選考を希望する選手は、5月20日（火）必着で「インチョン2014アジアパラ大会選手推薦選考申請書」及びJPCへ提出する必要書類（別に定める）を提出しなければならない。

推薦選手選考決定は、7月JP大会直後となる。

5、その他

本大会は参加にあたって、オリジナルユニフォームなど、費用の負担等が発生する